

稲沢市家庭教育支援チーム

“ ふぁみりい・らぼ ”

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	稲沢市(町、村、地区)家庭教育支援チーム (呼称: ふぁみりい・らぼ) URL: https://familabo.or.jp
②活動拠点	稲沢市
③活動範囲	稲沢市及びその近隣市町
④組織体制	14 人 保育士(3人)、元教員(1人)、子育て支援員(1人)、 社会教育委員(1人)、ボランティア登録者(6人)、臨床心理士(1人) スクールソーシャルワーカー(1人相談役)
⑤活動開始年度	2010 年度
⑥問合せ先 【公表可能な連絡先】	(部署・氏名等) NPO 法人ふぁみりい・らぼ 川口ゆかり (TEL)090-7041-5665 (E-mail) familabo2018@gmail.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	☒ 保護者等への学びの場の提供 ☒ 保護者等への地域の居場所づくり ☒ アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) L ☒自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) ☒ その他(関係機関との連携)
②活動対象 (複数チェック可能)	☒ 乳幼児 ☒ 小学生(低学年) ☒ 小学生(中学年) ☐ 小学生(高学年) ☒ 中学生 ☒ 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容	■おもちゃ図書館「むすび」 稲沢市より運営委託（未就学児親子対象） ・日時：毎週水曜日、午前10:00～12:00 ・場所：稲沢市中央子育て支援センター内プレイルーム 子供が主体になり、「自分で決める」経験が積めるように保護者に意図を説明し、多様な子供との関わりを通じて親同士が育ち合える場づくりを目的にしている。 ■不登校家庭支援フリースクール「tetote」 ・日時：小中学生 毎週火・木曜日、午後1:00～5:00 ・場所：市内公共施設 同世代と集いながら、興味関心の世界を広げ、自己表現や教科学習につながる遊びに発展できるように努めている。 学校と連携をしながら、随時、保護者相談を実施している。 ■子ども・若者食堂「てとてプラス」 ・日時：毎月第2日曜日 午後2時～4時（フリースクール生以外も対象） ・場所：市内公共施設等 ・カフェ会食・フードパントリー同時開催している。 ■親の学びの会：不定期 年3～4回程度 不登校、発達障害、思春期の「生と性」など、発達段階に応じて家庭で活かせる内容を実施している。（講師は、臨床心理士、特別支援教育支援士、助産師/看護師など） ■義務教育後の子ども若者サポートセンター開設（令和6年6月） ・日時：毎週金曜日、第1・第3土曜日午後1時～7時、その他 ・場所：稲沢市市内 社会的な自立準備を整えることを目的にしている。保護者の要望や方向性に寄り添いつつ、思春期～青年期における家庭教育と相談活動を実施。
④活動の成果 （活動実績がある場合）	■おもちゃ図書館「むすび」（未就学児対象） 来館者が増え、月に200～250組の親子が市内、市外から利用。子供の困った行動や、発達の心配、家庭での遊び方、入園準備など身近な相談が増えた。助産師の協力が得られるときは相談件数も多くなる。 ■不登校フリースクール「tetote」 在籍校で出席扱いとされている。稲沢市教育委員会と、連携協力の関係を結ぶことができた。短時間登校、適応指導教室、夕方登校、通級など様々な形で学校と接点をもった生活が定着しやすくなった。 ■子ども・若者食堂「てとてプラス」 毎月集うことで、子供も保護者も「ひとりじゃない」と、仲間意識が芽生え、ピアサポートの関係性が構築されている。食材配布も喜ばれている。 ■親の学びの会 孤立・孤独感解消だけでなく、他の家庭の様子に関心が高い。よその家庭の話を聴き、自分も試してみるなど、情報交換が盛んに行われている。 ■義務教育後の子ども若者サポートセンター

	義務教育卒業前から、関わりを始められることがポイントである。中学生の学習支援の需要が高く、少人数、個別対応の戻り学習や、積み直し学習を通じて、自分の学習スタイルを見つけ取り組んでいる。
⑤活動財源 (複数チェック可能)	☐ 文部科学省補助事業(事業名:) ☐ 文部科学省委託事業(事業名:) ☐ 厚生労働省事業(事業名:) ☒ 地方公共団体単独事業として実施 (稲沢市おもちゃ図書館事業) ☒ 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施) ☒ その他の支援により活動を実施 (令和6年度 独立行政法人福祉医療機構助成金)